教科・科目	古典探究	学年	2年	授業者	平木 まゆ
単元名	理科的な視点を取り入れて古典を探究しよう～「地震」を題材にして（読むこと）				
教材	方丈記「大地震」、平家物語「大地震」、吾妻鏡				

1 単元の目標

●（古典探究）

〔知識及び技能〕

・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。【（1）イ】

〔思考力・判断力・表現力等〕

・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

【A 読むこと カ】

〔学びに向かう力、人間性等〕

・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

2 本単元における言語活動

「地震」に関わる複数の古典の作品を読み比べ、地震に対する当時のものの見方や考え方の現代との共通点や相違点についてまとめる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。	・「読むこと」において古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	・作品の読み比べを通して、ものの見方や感じ方が自分の中でどう変化するのかを粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画（全4時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1次 1 時 間	○阪神淡路大震災と同規模と考えられている「文治地震」（1185）について、鎌倉時代にそのような地震が起きたことについて考える。 ○その地震について述べた記述がある「平家物語」の一節を読み、当時の地震に対する考え方について、初読の感想を書く。		
2次 2 時 間	○文治地震を取り上げている「方丈記」「平家物語」「吾妻鏡」を紹介し、文学史的意義について知る。 ○グループで上記３つのテキストを、「描写されている地震の状況」、「被災した人々の考えや様子」に着目して、整理する。 ○テキストの比較を通し、種類（目的）による差を理解する。	【知識・技能】 【思・判・表 読むこと】	記述の分析 （知識・技能） （思・判・表 読むこと）

3次 1 時 間	○鎌倉時代の人々の災害に対する考え方と、現代に生きる私たちの災害に関する考え方の相違点や共通点をまとめる。	【主体的に学習に取り組む態度】	記述の点検 （主体的に学習に取り組む態度）

5 単元の流れ

次		学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	①	○阪神淡路大震災の被害等の写真を確認し、現代における地震の被害を実感する。 ○阪神淡路大震災と同規模の地震が鎌倉時代に起きた（文治地震・1185）ということについて考える。	・地学基礎で学習した知識も踏まえる。 ・文治地震はM7.4と推定されており、平成7年の阪神淡路大震災（M7.3）と同程度のものである。（参考：今年1月の能登半島地震はM7.6）	
		探究課題：鎌倉時代の人々は地震が起きた原因をどのように捉えていたのか。		
		○文治地震について述べた平家物語「大地震」の一節を全体で読み、平家物語で表現されている、地震への考え方について、感想を書く。	・「平家のたたりによって恐ろしいこと（地震）が起きた」という内容が読み取れる。 【想定される生徒の意見】 ・そんなはずはない、非科学的である。 ・現代の私たちはありえないと思うけれど、当時の人たちはそう考えるしかなかったのだろう。	
2	②	○文治地震について述べている箇所がある、方丈記「大地震」、平家物語「大地震」、『吾妻鏡』の3つの作品について、文学史的意義を確認する ○3つの作品の地震の描写等を整理し、当時の人々の地震をどのように捉えていたか考察する。	・方丈記：随筆であり、筆者の感想等を自由に述べることができる。 ・平家物語：軍記物語であり、フィクションの要素も可能である。 ・吾妻鏡：歴史書であり、記録の側面が強いため、事実に基づいて述べている。 ・６人１グループ（全６グループ）での読み取り。３つの作品の地震に関する記述について、「描写されている地震の状況」、「被災した人々の考えや様子」に着目して整理する。 ・インターネット等を利用し、作者や作品について調べてよい。 ・読み取ったこと、調べたこと、考察をスプレッドシートにまとめる。 （６人１グループなので、グループ内で２人が一つの作品を考察する）	
	③	○各グループ内でそれぞれが考察した内容について共有する。 ○各グループの考察について、全体で共有する。	・各グループにおいてペアで調べたそれぞれの作品の考察について共有する ・シートに記載された内容からいくつかを取り上げ、全体で共有する。	【知識・理解】 「記述の分析」 ・スプレッドシートの記述 【思・判・表 読むこと】

		○3つの作品の違いから何が分かるか個人でまとめる。	・全体共有ののち、個人で文章にまとめる	「記述の分析」 ・スプレッドシートの記述
3	④	○鎌倉時代の人々の災害に対する考え方と、現代に生きる私たちの災害に関する考え方の相違点や共通点をまとめる。	・ワークシートに記述する。	【主体的に学習に取り組む態度】 「記述の点検」

全てなくなることのむなしさ、はかなさ。世の中のたよりなさ。
平家の滅亡など、時代の流れも相まって、「無常」を切に感じている。

平家の栄華と滅亡を描く平家物語のなかで、地震が起きたことを述べるのはストーリー展開上本筋のものではない。しかし、1185年春に壇ノ浦の戦いで平家が滅亡し、その年の7月に大きな地震が起きていることに、つながりを見いだしたのではないか。歴史書に地震の原因を怨霊等と述べていることから、当時の人々は自然の驚異に対して、非科学的な理由付けをすることで、不条理をどうにか理解しようとしており、それが一般的な考えであったと考える。
これらに対し、鴨長明は随筆という自由な記述が可能な作品形態のなか、そうした世の風潮にはふれず、地震が恐ろしいものとだけ述べているのも、淡々と地震の被害を述べることで、かえって世の中すべてが無常である、という、強いむなしさを強調したのではないか。